

校長室より

第108号

「天空高き」



平成30年5月22日

中間考査からーPDCAサイクルー

中間考査が終了しました。皆さん結果はどうでしたか？

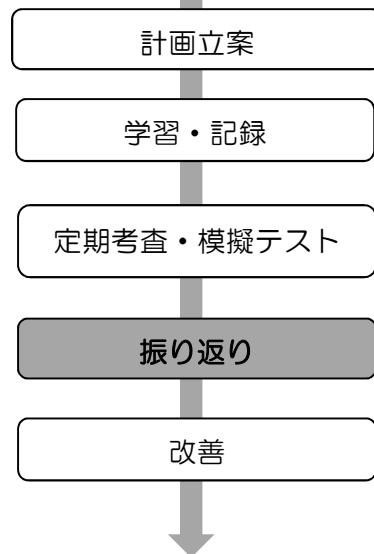
良かった教科もあれば、悪かった教科、様々だと思います。大事なことは、皆さんひとり一人が今回の中間考査を振り返り、次に活かすことです。

良かった教科、なぜ満足の行く結果を出せたのかを考え記録しておくことです。

悪かった教科は、悔しさをバネにして、次は同じ失敗をしないよう反省し、それを記録しておくことです。自分のテスト勉強の仕方を振り返ることは必要なことでとても大切です。

振り返るときに、教科担当の先生方や担任の先生の指導や助言を仰いだり、テストを頑張ったクラスメイトの意見やアドバイスを聞くことは、自分では気づいていないことを発見する手掛かりにもなります。第三者の視点を取り入れることは自分を客観視でき、これから皆さんが生きていく上でとても大事な力です。

自分のテスト勉強の仕方を振り返る。反省をしたら改善策を考え、次回のテストに向けた勉強計画を立てる、そして実行し、テストを受ける。これを繰り返していくことで、徐々に勉強量が増え、勉強の質も向上していきます。この繰り返しをPDCAサイクルと言います。これは、Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）の4つの頭文字を順に4つ並べたもので、これを繰り返し、サイクルを向上（スパイラル アップ）させることによって、継続的に皆さんが学びに向かう力を改善しようとする考え方です。これから皆さんがいろんな場面でこのPDCAサイクルを使うようになると思います。



思い立ったら、いつでもそこがスタートライン

「5分前行動を」 ―それは相手への敬意と配慮です―

皆さんは受験の時や大切な用事があるときには早めに行動すると思います。早めに準備をしておくことで、余裕を持って物事に取り組めることを知っているからです。余裕が生まれることで、ミスも少なくなります。

私事になりますが、今まで時間が守れず数多くの失敗をしました。自分の責任で済まされる範囲なら許されますが、相手の方に迷惑を掛けてしまいます。時間を守るとは、相手への配慮、敬意を示していることになります。

お互いに時間を守ることでこの社会は成り立っています。また、日本では時間がとても大事にされています。国民性といっても過言でないと思います。

時間を守ることで、日本人の真面目さや勤勉性が培われてきたのかもしれませんが。

5月の月間目標

先を見据えた行動
5分前行動を

平成30年度
チャレンジ目標

1. 挨拶 先に明るく元気に
2. 先を見据えた行動 5分前行動を
3. 1%を誰かのために ポラティア活動を
校長室より

水たまりーワクワドキドキー

校門前に立っていると、愛宕小学校のピカピカの1年生が私に「おはようございます」と元気な挨拶をしてくれます。

雨上がりの朝は、歩道のあちらこちらに水たまりができています。

彼らはその上を面白そうに踏みつけながら歩いていきます。本校の生徒たちは誰もが水たまりを避けて通っているのに。

彼らの靴に泥水が付き汚れますが、一向に気にすることなく、また次の水たまりをわざわざ踏んずけて行きます。

晴れた日は晴れた日で、彼らは道端や空き地に生えている草花に興味を示したり、急に追いかけてっこをしたりと、まっすぐに学校に向かうということはありません。

私も幼稚園や小学校から家まで帰るのに、随分と道草をしながら帰ったように記憶しています。

誰もが幼少期においては、外に出れば目に触れるもの、聞こえてくるものなどに、目を輝かせながら、ワクワドキドキしながら走り回っていたと思います。

私たちは年齢を重ねるごとに興味関心が移り変わってゆきますが、時には幼少期、初めて外に出た時の新鮮な驚きや輝きを思い出してみてもはどうでしょうか。新たな発見があるかもしれません。



「帰化植物」

毎年この季節になると、皆さんは必ず道路沿いや空き地で、黄色い花をつけるオオキンゲイキク、白い花のヒメジョオンを見かけると思います。

どちらも帰化植物で、北アメリカからそれぞれ、1880年と1865年頃、観賞用として輸入されました。再生力が強く刈り取りに耐えるなど繁殖率が高かったため、日本各地に伝播していきました。

しかし、在来種の植物の生育を邪魔する可能性があり、特に自然豊かで希少な植物が多く生育する国立公園や亜高山帯では、大きな問題となっています。そのため、両者ともに要注意外来生物に指定されているほか、日本の侵略的外来種ワースト100にも選定され、栽培・補完・運搬・輸入・植栽が原則的に禁止されています。

ところで、オオキンゲイキクは、漢字に直すと「大金鶏菊」となります。花の色を「金色に輝く美しい雉(きじ)の一種のキンケイ(金鶏)」に見立てたと言う説と、「太陽の花、ヒマワリ(向日葵)に似て、黄金色に眩しく映えて花びら美しく飾り、その形が鶏の鶏冠を思わせる」ことからという説があります。

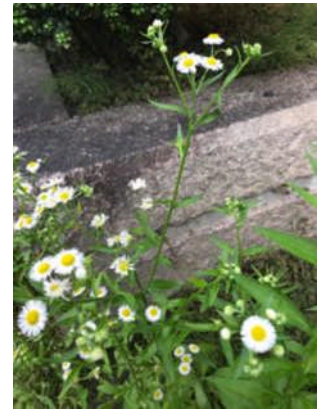
また、ヒメジョオンは漢字に直すと「姫女菀」。「姫」は「小さい」、「女菀」は「中国産の野草」を表すそうです。

どちらも日本に定着して約150年になります。

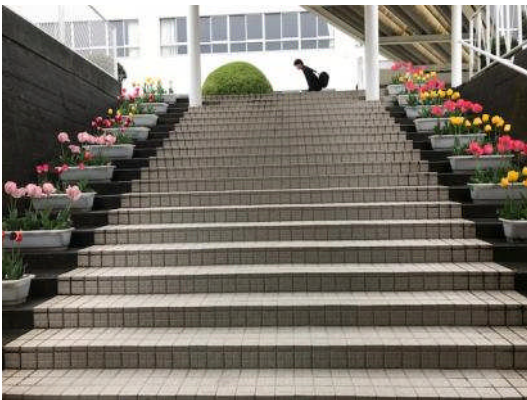
帰化植物は、日本に生育しても全ての仲間が日本に移り住み、生育しているわけではありません。原産地にはあくまでも他の仲間の植物はそのまま生育し続けています。「日本の植物学の父」牧野富太郎博士は、帰化植物という名称は不適切であると述べています。最近、環境省は、「移入植物」という言葉に統一したようです。



オオキンゲイキク (キク科)



ヒメジョオン (キク科)



「急ぐ」谷川俊太郎
こんなに急いでいいのだろうか
田植えする人々の上を
時速二百キロで通りすぎ
私には彼らの手が見えない
心を思いやる暇がない
この速度は早すぎて間が抜けている
苦しみも怒りも不公平も絶望も
すべて流れてゆく風景
こんなに急いでいいのだろうか
私の体は速達小包
私の心は消印された切手
しかもなお間にあわな
急いでも急いでも間にあわな

あらためてトキ・バ・レイ「時を守り・場を清め・礼を糺(ただ)す」

今マスコミ等で、日本大学アメリカンフットボール部のラフプレーが大きな社会問題となっています。

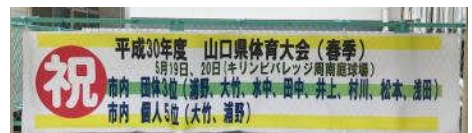
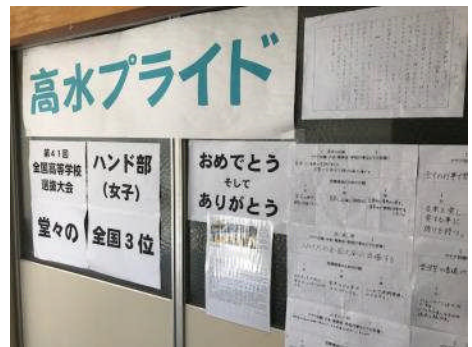
スポーツに限らず、文化的な活動を含め、これらの活動は青少年の心身の健全な発達を促すものです。特に自己責任、克己心やフェアプレーの精神を培うとともに、仲間や指導者との交流を通じて、青少年のコミュニケーション能力を育成し、豊かな心と他人に対する思いやりの心を育みます。

最高学府の大学で、このようなことが起こりとても残念です。毎日のように、このラフプレーの場面を見せられ、不快です。この画面に出てくる選手は大学生です。彼らのこれからが案じられます。我々大人はこの事件に関して、きちんと正面から向き合い答えを出していかねばなりません。

日本の国技である相撲の春場所が国技館で開催されています。相撲界では、土俵上で勝負前や勝負後も含めて「喜怒哀楽」を出さないと言われています。

相撲というのは、ひとりでは取れません。相手がいるからこそ、いい勝負ができるのであり、敗者がいてこそ勝者です。お互いに相手を慮る。敬意を表す。今日の勝者は明日、敗者になるかもしれない。その逆も。負ける悔しさを知っているからこそ、勝つ喜びがある。だから、負けた悔しさも隠して、勝った喜びも隠し、お互いに礼をして土俵を下ります。

運動部では6月前後にはインターハイ予選が、文化部においても各種大会や発表会が開催されます。付属中では、6月に県選手権大会予選会が開催されます。お互いに、時を守り、場を清め、礼を糺し、リスペクの精神を大事にして、一人ひとりの持てる力を存分に発揮して、充実した心に残る大会にしてもらいたいと思います。



24節気

立夏 (りっか) 5/6 頃 夏の立つがゆへ也 (暦便覧)

この日から立秋の前日までが夏。野山に新緑に彩られ、夏の気配が感じられるようになる。かえるが鳴き始め、竹の子が生えてくる頃

小満 (しょうまん) 5/21 頃 万物盈満 (えいまん) すれば草木枝葉繁る (暦便覧)

陽気がよくなり、草木などの生物が次第に生長して生い茂るという意味。西日本でははしり梅雨が現れる頃

出典「こよみのページ」